

見川喜蔵みかわきぞう（中）

今回は碑文を掲載し、後に読み下だしを付して照会します。

碑文は石塔の三側面に刻まれている。

碑文

故粕壁驛亭長喜蔵翁墓表

翁諱知舉字喜蔵姓見川氏武州埼玉郡粕壁驛人考諱貞昌妣關根氏世爲亭長翁天性至孝生來色養不怠父母有病不離其左右丸藥餌必嘗而後進又善與人交終始一節雖驛卒廝養亦推誠過之於是鄉人依歸愛慕敬之如父母也

天明丙午歲關東大浸米價遞躍窮民艱食翁勸諭鄉富豪使出貲損穀而賑助焉

又諭儲穀者平價而賣與之於一鄉貧民皆免飢饉之患粕壁之驛瀕古刀禰川而川之西南新方巖槻教郷收入之定額

二万石

秋霖十日水溢襄陵田禾悉冲矣翁憂之大發鄉丁壯私給資糧而築堤凡數里是後每秋完納而免速連缺之責者實翁之力也羣衆大喜稱其堤曰喜歲堤 事達於 官府乃

賜稱氏佩刀列於七流又別賜白金若干餅加褒賞焉 官刻頒行孝義錄已載其人而詳記其事

先是下毛州乙女邨人戶逐丘田委榛莽懸令與椽属相謀使翁開墾事翁起鄉余夫莽棘而開田圃鳩流民而勤稼穡不數年而復舊矣

翁重義輕財而調急救貧惟恐不及是以一鄉服之鄉有爭訟事則翁自就其家懇說利害諄々教諭之爲而家排難解紛矣是以一鄉重之

翁風貌魁偉聲如洪鐘性嗜酒飲至數斗不亂年六十余意氣蓬勃引滿勸客如少壯人文化二年夏得病而寢其年十月二十九日没享年六十七葬驛之愛湯山先塋之側縣令椽属及近境父老無不惜而悲者翁娶飯島氏生子二人男順匡令見亭長女綺姐嫁杉山氏餘嘗為懸主簿熟翁爲人順生餘銘其墓余弗辭為之銘

銘曰

勤孝干家 施惠干郷 名載青編

遠近誦芳 年蒙明賞 子孫承榮

懿哉斯翁 率衆以誠 刀禰之堤

功成不崩 民頼遺澤 永世不忘

文化六年歲己巳春三月

越後 館機撰

卷大任 書

碑文の読み下だしはつぎのとおりです。

故粕壁ウマヤ駅の亭長(名主) 喜蔵翁墓表翁諱イミナは知挙、字は喜蔵、性は見川氏、武州埼玉郡粕壁駅の人なり。

考(父) 諱は貞昌、妣(母) は関根氏、世々亭長たり。翁天性至孝にして、生来色養(孝養)怠らず父母に病

有れば其左右離れず、薬餌を丸めて必ず嘗^ナめて後に進む。又善く人と交わり終始節を一^{イツ}にす。駅卒^{シヨウ}廝養（使用人）すと雖亦推誠之に過ぐ。是に於て郷人依帰愛慕し、之を敬ふこと父母の如し。

天明丙午の歳、関東大浸（洪水）あり、米価^{テイヤク}遞躍（日々値上り）して窮民食に難^{クルシ}む。翁、郷の富豪に勸諭して^シ資を出さしめ、穀を損^スて、これを賑助す。又、儲（貯）穀の者に諭し平価にして之を一郷に売与え、貧民皆飢饉^{ワズライ}の患を免る。

粕壁の駅は古刀祢川に瀕み、川の西南、新方・岩槻教郷の収入の定額は二万石なり。

つづく

初出「広報かすかべ 昭和五十五年四月」かすかべの歴史余話